

# 「湖山池将来ビジョン」 策定にむけた市民意識アンケート調査

研究員 新 名 阿津子

## 1. 事業の背景

鳥取県および鳥取市より「湖山池将来ビジョン」の策定に向けた市民意識アンケート調査への協力依頼を受けたものである。

## 2. 事業内容

7月：鳥取市・鳥取県より調査依頼を受ける

依頼内容：信頼度を保証するアンケート数、質問項目とアンケート対象者決定に関する協議協力、アンケート分析

8～10月：アンケートの質問項目および対象者に関する議論を重ねる（県・市・TORC）

10月：アンケート票の完成・承認（県・市）

11月：アンケートの発送（鳥取市）

12月：アンケートの回収・入力（鳥取市）

1月下旬～2月：アンケートの分析（TORC）

3月：報告書の完成

### 《アンケート調査の概要》

- ・ 目的：市民が湖山池に対してどのような思いや考えを持っているかを明らかにし、「湖山池将来ビジョン策定」の参考資料とすること。
- ・ 調査対象：一般市民3000人  
湖山池周辺住民1000人
- ・ 質問項目：一般市民を対象に、湖山池の認知・関心、利用実態、将来像、今後の利活用についての質問を設定。  
周辺住民に対しては、一般市民向け質問項目に、環境悪化に伴う生活・健康被害や水質浄化対策に関する項目を追加。

## 3. 調査結果の概要

### 3. 1 市民と湖山池の関わりについて

まず、「市民と湖山池との関わり」について、湖山池についての知識・イメージ、利用実態、環境への取り組みとその意識についての質問を行った。その結果、湖山池についての知識やイメージを問う質問では、現在周辺に立地している吉岡温泉やレーク大樹、石がま漁、湖山池公園、湖山長者がよく知られていることが明らかとなった。イメージについては、水環境に対するネガティブなイメージがポジティブな評価を上回っている。特産品としてフナ、エビ類、コイが知られているものの、実際に食した経験のある特産品にはエビ類、フナ、ワカサギが多く挙げられていた。

次に、湖山池の利用実態についてみると、一般市民は交通の利便性（駐車場）が確保された温泉地として利用している。周辺住民は交通の利便性（家からの近接性）が確保された温泉、散策地として利用している。しかしながら、一般市民における湖山池の利用頻度は「数年に1回」であり、利用頻度は非常に低いものとなっている。一方、周辺住民の利用頻度を見ると、「年に数回」程度が多いものの、日常的な利用も一定数存在する。

水環境については、濁った水、ヒシ・アオコの大量発生といった景観面での不満が多い。周辺住民を対象とした生活への影響や家庭での環境対策に関する項目では、特に生活に支障がないとする回答が多いものの、中には生活への悪影響として「におい」を問題とするものもあった。環境対策においては、ゴミ対策をはじめ様々な対策がなされているが、対策への積極性に欠ける面もある。

### 3. 2 湖山池の将来像について

湖山池の将来像について塩分濃度別に4つのパターンを例示し、そこから市民が望ましいとする将来像やそれに係るコスト意識、行政への期待を質問を行った。その結果、一般市民、周辺住民共に、コスト高ではあるが、水質の改善・ヒシやアオコの抑制・多様な生物の生息を評価し、多くがCパターンを選択している。他方、産業振興に関しては、A・Bパターンの回答者の多くが漁業・農業振興を望むのに対し、C・Dパターンの回答者は観光振興・漁業振興を望む傾向にあった。

行政に対しては「水環境の改善（水質改善、ヒシ・アオコの異常繁茂の抑制）」を急務の課題として指摘されており、同時にその解決への期待が大きい。とはいえ、最低限のコストで最大限の環境改善を望むものや、湖山池に関する情報が日頃から少ないことを指摘するものなどがあった。

### 3. 3 今後の活用策について

ここでは湖山池の今後の活用策について、その方向性や施設ニーズに関する質問を行った。その結果、「観光振興」と市民の行楽地（「キャンプ」、「野外イベント」、「魚釣り」）という方向性が示された。施設ニーズには「自然公園」、「釣り施設」、「喫茶店・レストラン」が挙げられている。

とはいえ、「自然公園」へのニーズについてみると、1.の湖山池の知識に関する質問では「湖山池公園」が上位に来ており、湖山池周辺に公園が整備されていることを市民は知っている。とするならば、この「自然公園」への高いニーズをどのようにとらえればよいのか。既存公園が市民ニーズに合った形で整備されていない可能性もある。その点については、今後の継続調査が必要となろう。その他、「自然公園」への高いニーズを示す要因の一つとして考えられるのは「情報発信能力の欠如」である。これについては、自由記述欄で「湖山池に関する情報量が少ない」、「湖山池で何をやっているのかが分からない」と数多く指摘されている。また、本アンケートを通じて、湖山池が直面している課題を初めて知ったとする市民も多い。ゆえに、今後は「情報発信能力の強化とその継続」も必要となろう。

また市民の行楽地として、キャンプ場や野外イベント、魚釣りが挙げられている。魚釣り以外のキャンプ場や野外イベントのスペースは青島をはじめ湖山池周辺にいくつか存在するが、利用頻度が低いことから、あまり活用されていないのが現状であろう。魚釣りに関しては活

用策や施設ニーズも高いため検討する必要がある。

### 3. 4 湖山池将来ビジョン策定について

湖山池の昔の姿について質問を行ったところ、「昔は水がきれいで、泳ぐことができた。多様な生物が生息しており、それらを捕って食べていた」との回答が多く寄せられ、湖山池が市民生活の一部であった様子がうかがえる。本調査では、湖山池将来ビジョンの策定そのものに対する反対意見はごく少数にとどまり、多くの市民は湖山池の環境改善を求めていることが判明した。その点においては、一定の市民理解を得られているものと考えられる。しかしながら、現在示されている「湖山池の将来像」がコスト高であること、湖山池に関する情報が少ないことなどの課題が明らかになった。今後は、市民と共に広く情報を共有しながら、湖山池の再生へ取り組む必要がある。

## 4. 効果・評価

本調査は湖山池将来ビジョンの策定の参考資料とすることを目的に行われたものである。今後、この調査結果がどのように活用されるのか、注視する必要がある。